

令和 6 年度
大阪市芸術活動振興事業助成金
アンケート調査
報告書

令和 7 年 7 月
大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会
(大阪アーツカウンシル)

調査の背景と目的

大阪市は、市民における文化芸術活動の水準向上とその振興を推進するため、「大阪市芸術活動振興事業助成金」を実施している。この助成金は、文化的水準の向上および新たな文化創造に寄与すると認められる芸術活動に対し、支援・助成を行うことを目的としている。

令和6年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特別助成の拡充措置が終了したこととともに、現在の大阪の文化芸術環境により適した制度へと改正された。本調査は、この制度改正を検証することを目的として、アンケート調査を実施するものである。

調査の対象と方法

調査対象は、令和7年度の一般助成（上期）と特別助成への申請者となる。調査方法は、行政オンラインシステムを利用して申請する際に、任意回答のアンケートフォームを設置し、回答を希望する者が自由に参加できる形式を採用した。

調査期間は令和7年1月7日（火）から2月4日（火）まで、本助成金の募集期間と同時に行われた。回収された調査票は126件で、これは本助成金への申請数153件のうちの約8割を占めていることになる。

調査の運営

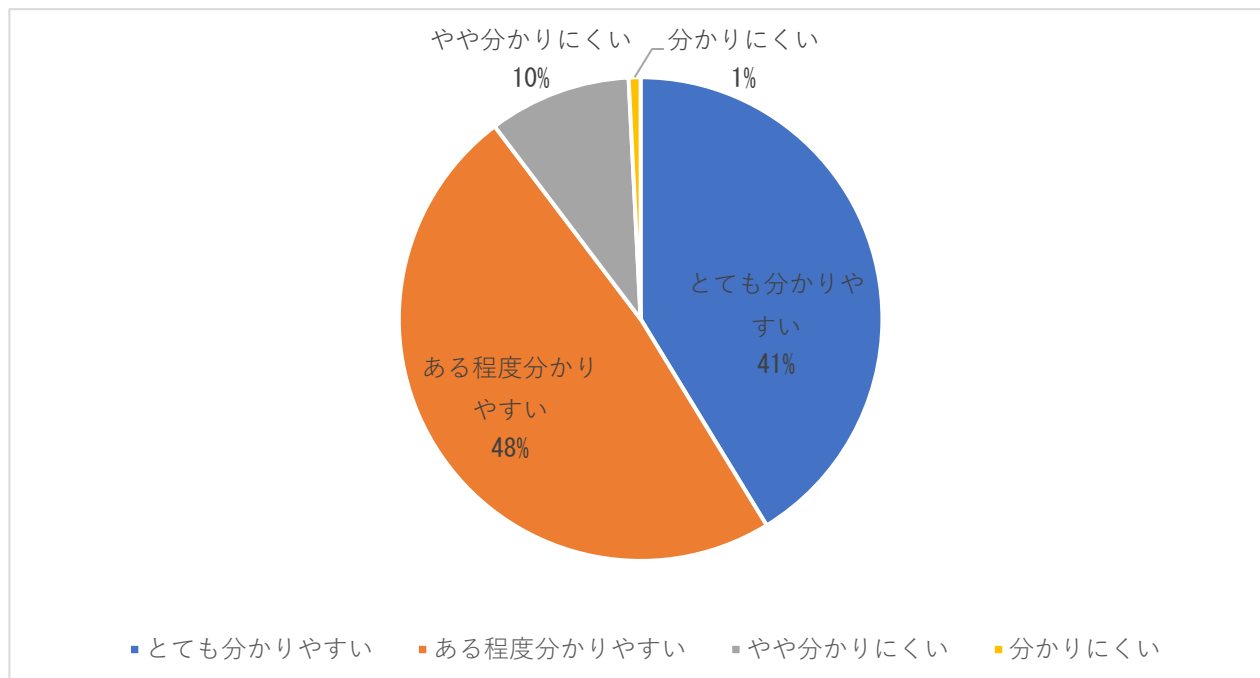
調査票の回収は本助成金の実施主体である大阪市文化課によって行われた。回収された調査票は、個人・団体名を除いて大阪アーツカウンシルに提供された。大阪アーツカウンシルは、提供された調査票に基づき本アンケート調査の集計と分析を行い、報告書を作成した。

報告書の見方

表の“n”は各設問における母数を表している。百分比（％）は、小数点以下を四捨五入して表示している。そのため、四捨五入の結果、比率の合計が100%と一致しないことがある。自由記述の回答については、誤字・脱字があると思われる箇所については軽微な修正を行っている。

集計結果

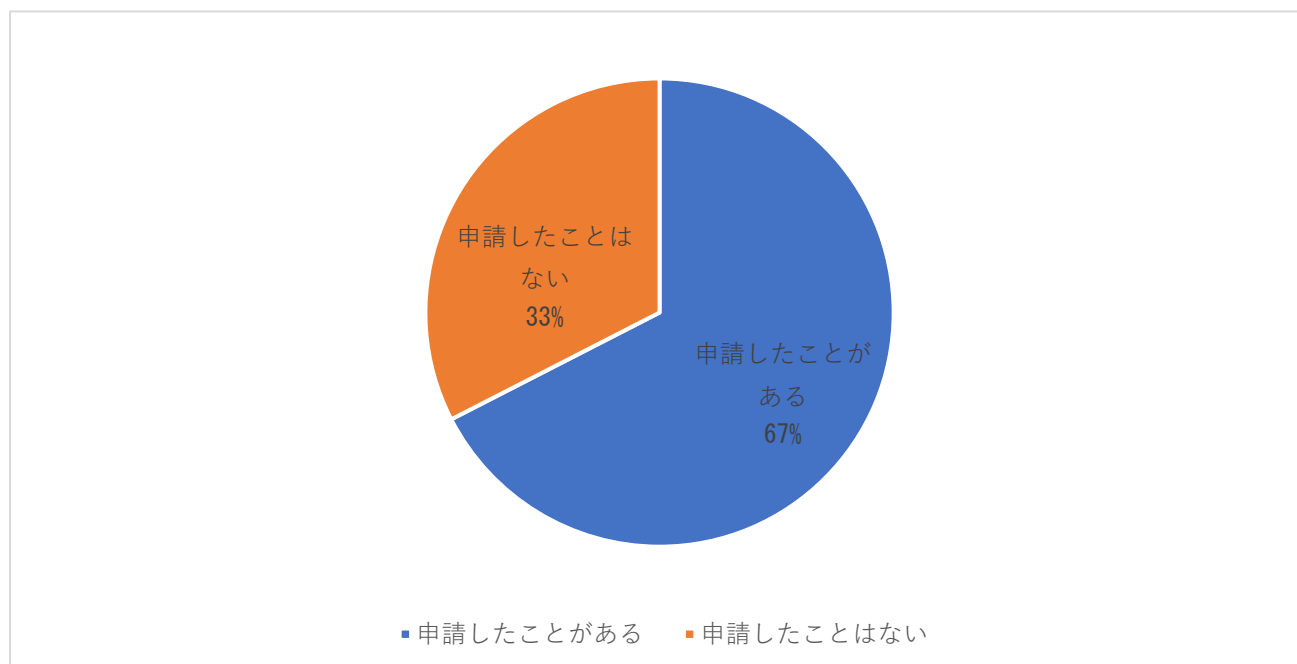
問1. 募集案内は分かりやすかったですか？（n=126）



項目	件数
とても分かりやすい	52
ある程度分かりやすい	61
やや分かりにくい	12
分かりにくい	1
合計	126

今回の調査において、「とても分かりやすい」（41%、52 件）、「ある程度分かりやすい」（48%、61 件）と回答した人が合計 89%を占め、大半の申請者にとって募集案内が一定以上理解しやすい内容だったことがわかります。全体として、「分かりやすい」方向に評価が偏っていることがわかります。一方、「やや分かりにくい」（10%、12 件）、「分かりにくい」（1%、1 件）という意見も一定数見られたことから、募集案内の一部に表現の難しさや情報量の多さなどの課題が残っている可能性があります。

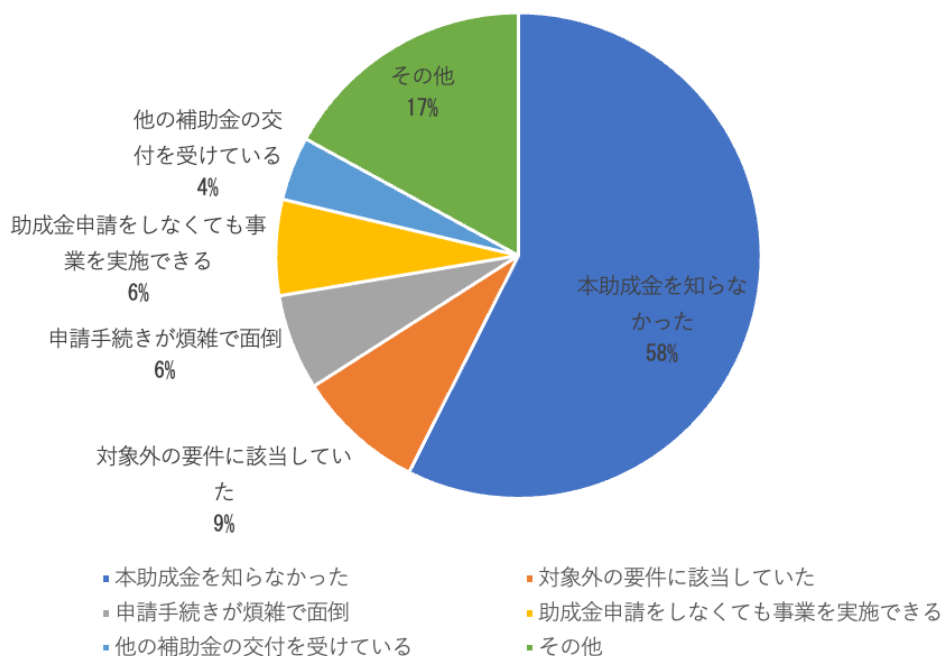
問2. 過去に本助成金に申請したことはありますか？（n=126）



今回の調査では、67%（85 件）の申請者が「過去に本助成金に申請した経験がある」と回答しており、助成金を一度限りではなく、継続的に活動資金として活用している申請者が多いことがうかがえます。一方、「申請したことはない」と回答した新規申請者も 33%（41 件）を占めており、本助成金の認知度や裾野が広がり、新たな活動やプロジェクトに対してもアクセスが広がっている可能性が示唆されます。

問3. (過去に本助成金に) 申請しなかったのはなぜですか？

(問2で「ない」に回答した者のみ、n=41 (複数回答、回答総数=47))



項目	件数
本助成金を知らなかった	27
対象外の要件に該当していた	4
申請手続きが煩雑で面倒	3
助成金申請をしなくても事業を実施できる	3
他の補助金の交付を受けている	2
その他	8
合計	47

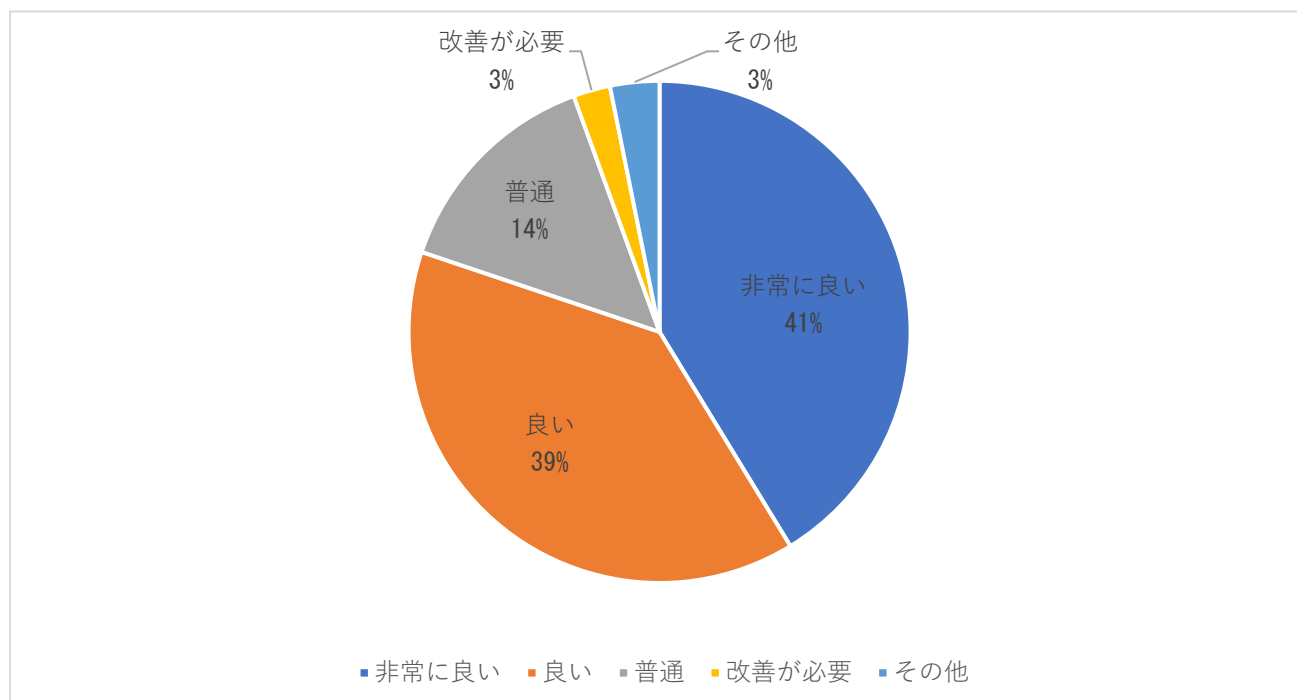
その他の回答

- ・ タイミングを逃した
- ・ 対象となる事業を実施しなかった
- ・ 企画と申請のタイミングが合わなかった
- ・ 対象外と思っていた
- ・ 団体活動が初めてなので
- ・ 他の地域で企画していたため
- ・ 公演活動をしていなかった
- ・ 地域の活動に専念していたので大阪での上演の機会が無かったが、〇〇賞受賞支援公演として大阪での公演ができることになったので申請した

41 人の助成金未申請者（複数回答可、回答総数 47 件）の理由を分析した結果、最も多かったのは「本助成金を知らなかった」（27 件、回答者の 58%）であり、依然として本助成金の認知不足が制度活用における最大の障壁となっていることが明らかになりました。その他の理由としては、「対象外の要件に該当していた」（4 件）、「申請手続きが煩雑で面倒」、「助成金申請をしなくても事業を実施できる」（各 3 件）などが挙げられました。

また、「その他」の回答（8 件）では、「タイミングを逃した」「対象外と思っていた」「他の地域で企画していたため」など、申請のタイミングや地域的条件への誤解や制約が理由として挙げられていました。これらの結果から、引き続き本助成金に関する情報提供の拡充が求められるほか、募集のタイミングや申請要件についてもさらに分かりやすく、また継続して周知する必要があることが示唆されています。

問4. 令和6年度より新設された一般助成B（助成上限：50万円）についてどう思いますか？（n=126）



項目	非常に良い	良い	普通	改善が必要	その他	合計
件数	52	49	18	3	4	126

その他の回答

- ・初めての応募のため過去との比較がわからないため
- ・申請したことがないのでわからない

今回の調査では、令和6年度より新設された一般助成B（助成上限50万円）について、「非常に良い」（52件、41%）および「良い」（49件、39%）と評価した人が合わせて80%を占め、多くの申請者から好意的に受け止められていることが分かります。一方、「普通」が18件（14%）、「改善が必要」が3件（3%）と少数ながら指摘されています。

これらの結果から、新設された助成区分は概ね評価されていることがうかがえます。

問5. (問4の回答に対し)その理由をお聞かせください。(問4の回答別)

	[問4の回答] 非常に良い
1	これまでになかった枠組みですが、ニーズを的確に捉えていると思います。
2	活動の幅が広がると思います。
3	助成金の上限額が増えることにより、やれることの幅が広がると思います。
4	上限額が増えると計画する事業内容に幅が持つようになる
5	今回利用予定はありませんが中規模の場合には助かります
6	助成金額が増えることで作品の幅が広がること。
7	分けられている方が申請の幅があって良いと思います
8	目的とする事業に最適な金額
9	少しわくを広げた活動ができる
10	開催規模に合わせた助成がより細やかになったから
11	20万円と200万円の間くらいの規模の公演で申請ができる
12	20万では少し足りないように思うところで、特別助成にチャレンジするほどではない事業に対して適切な補助だと思います。
13	これまでの一般助成では中規模の企画が動かしにくかったため。
14	特別助成より手軽で、一般Aより手厚い内容。
15	より多くの助成金による効果が得られるため
16	昨今の人件費上昇や物価上昇もあり、20万円では公演規模に対して不足だと感じる。
17	金額がアップしたことで、自己負担金が減るため。次回チャレンジしたいです。
18	物価上昇によりそれぞれの単価が高くなっているため
19	一般助成Aの20万円と比較して、本助成ではより多額の支援が得られるため、事業の質をさらに向上させることが可能だと考えました。
20	経費の掛かる演奏会を続けていくには大変有難い。
21	経費への憂慮、躊躇なく、より積極的な活動が叶うから。
22	数年前に比べて、材料費、物流費、人件費などが大きく高騰していますが、一般助成Bの新設により、高騰に伴うチケット代の値上げや作品の質の低下を回避することが可能となっています。
23	コロナ禍を経て、それまでライブハウスに足を運んでくれていたお客様が減少してしまったので
24	5年以上申請してなかったけど、チャンスの枠が一つでも増えるなら公演をするうえで本当にありがたいと思っています、
25	中堅劇団以降は俳優・スタッフがキャリアを積んだことで、ギャランティが高くなる為20万円では依頼相手が制限されていた
26	規模に合わせて適した助成を受けられるという意味で、選択肢が増えたのは応募者にとっては有り難いと思うから
27	特別助成の対象までは難しい場合に選択できるので良いと思います。
28	特別助成と一般助成Aの間を埋める内容であるため

29	小規模の催し物でも活動領域の積極的な拡充検討に繋げやすい。
30	演劇は様々なアーティストが集まり創り出す活動なので、最低限人件費として 50 万円は必要だからと考えます。
31	公演の規模により助成を選択できるため
32	助成金額が増えることでより作品がグレードアップすることができる。
33	申請の幅が広がるから。
34	今まで予算的に出来なかった事へ思い切ってチャレンジができる
35	芸術団体の活動の幅がより広がるから
36	20 万円助成金より多い金額を申請でき、事業が拡大できるため
37	私たちの活動においては、規模的にとても良いと思う。
38	文化助成の裾野が広がってよいと思う
39	活動内容に応じた支援をしていただける
40	規模の大きい公演にチャレンジできるのでいいと思います
41	幅広い団体で本制度が活用できるため
42	物価高騰に伴い、役者、スタッフさんへのギャラも上げるべきと考えます。本当に助かったという気持ちです。
43	申請額が増えることで、公演の規模を拡大できるから
44	助成の幅が広がると活動も広がるので
45	通常公演を 40 万円程度(助成金額 MAX20 万の倍)でできるものなどないので、自己負担金が重くのしかかっていたが、50 万の枠が新設されたのでだいぶ自己負担金を減らせたり、中身を分厚くできるため
	[問4の回答] 良い
46	演劇公演の費用や単価、人件費が年々上がり続けている。個人ユニットでも公演を打てるから。
47	学生劇団上がり自分たちで劇団結成して活動が続けていく中で、少しステップアップしようって時に丁度良い額。助成金申請に挑戦してみる良い機会にもなりそう。若手に使いやすい支援策が文化の発展には重要だと思う。20 万円だと「ここを今までと変えていこう!」と考えるには心許ないので。
48	金額が必要な事業にもチャレンジできるため
49	実現できる企画の可能性が広がる
50	20 万円助成ではアマチュアがホールを借りて公演できるが、レベルアップのためにプロの参加や演出面で予算的に余裕が出るのでは
51	一般助成 A を経験した団体・個人のステップアップとなる
52	活動の範囲が広がると思う
53	助成額が規模によって選べることは良いと思います。
54	一部であっても、非常に助かります。今後も設定いただければと思います。
55	助成の選択肢が増えるため

56	申請者が柔軟に選択できると感じます。
57	事業規模により選択ができるため
58	活動の幅が広げられるため
59	規模の大きい企画にチャレンジできやすくなるから。
60	活動に役立つ
61	上限幅に選択肢ができたことは申請者にとって申請のしやすさになっていると思います。
62	単純に多く助成金をいただけるのは嬉しいです
63	以前より増額されたこと
64	助成金の幅が広がったのはとてもありがたいです。
65	金額が大きくなることは大変ありがたいが、対象経費がかなり限られていることが少し残念。
66	事業の規模に関係ないとおっしゃっておられたのが良いと思った
67	申請の幅が広がる。
68	助成金額が上がったのは申請者にとってありがたいが、1/2 助成なので事業規模によっては負担も増えることになる。申請の仕方を十分に検討する必要がある。
69	手頃感あり
70	助成上限が増えることで、挑戦的な活動への足掛かりになるから
71	私どもの事業規模には合わず申請しませんが、上限 50 万円を必要とされる団体にとっては良いと思います。
72	補助の範囲が拡がり、活動が進めやすくなるため
73	予算規模の拡大が見込みやすい
74	新作や既存の作品、公演規模によって申請の枠を変えられるのは良いと思う。
75	助成金の申請できる内容の幅が広くなり選択肢が増えたことが大変うれしい
76	選択の幅があって良いと思います。
77	演劇公演制作において作品の向上に役立ち、より多くの観客に上質の作品を届けることが可能になるので
78	予算規模の大きい場合に使いやすい
79	団体や事業の規模によってよりきめ細かく対応しようという姿勢が見られる。
80	20 万円より増加されたこと
81	日舞を楽しめる機会を作る励みになります。
	〔問 4 の回答〕 普通
82	開催に予算が必要な芸術活動を可能にすることができると思うからよいと思う
83	もう少し柔軟に使える助成金だと嬉しく思う。
84	助成金制度利用が初めてのため詳細をあまり理解出来ていない
85	他財団でこの金額が標準と思えます。
86	一般助成 B に申請する機会がない
87	規模の小さい公演でたくさんの助成ができることは採択団体のチャンスが増える。

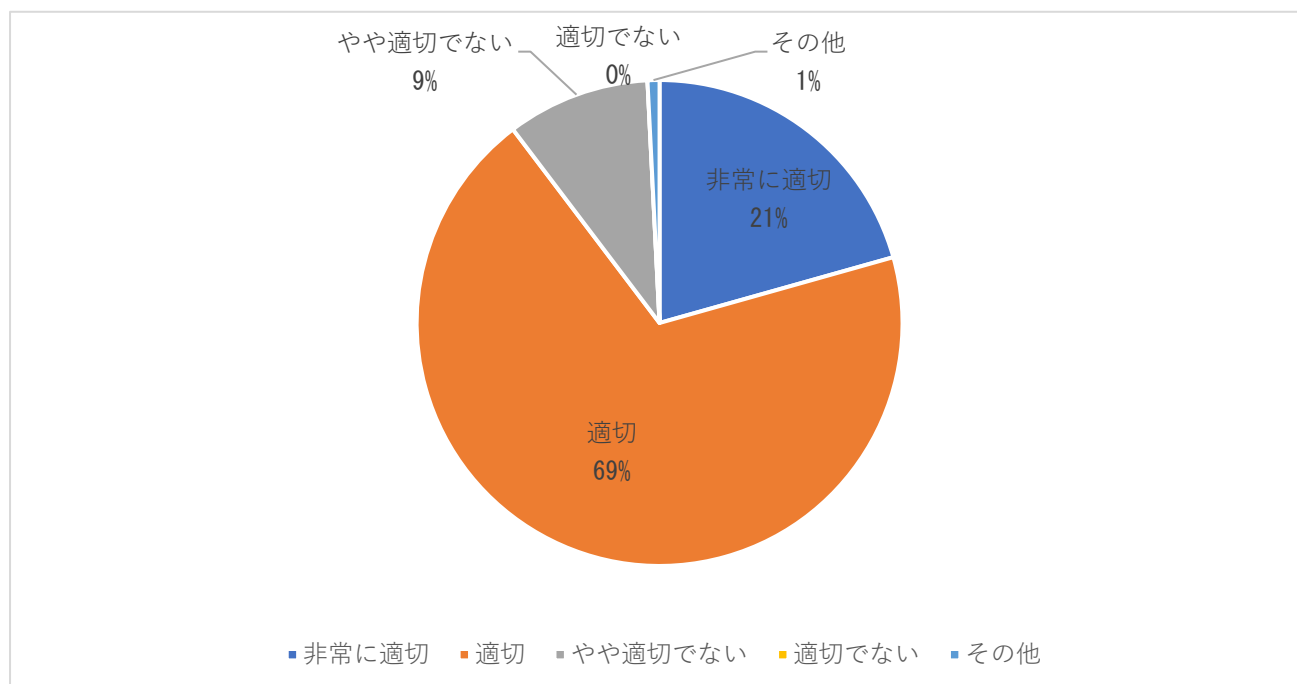
88	以前より感じていたことであるが、作家に対してコミッションする場合は新作の発表となるので申請内容(企画やコミッションの方向性)が妥当なものであるならば、制作費の計上を検討いただきたい。
89	一般助成Bで申請すると、不採択となる確率が上がることから一般助成Bの申請を躊躇する団体が出てくるのではないかと
90	自分たちの活動予算をそんなに変えることができないため
91	使う人も多いと思います
92	大掛かりな舞台や創作（主にスタッフ費にかかるもの）、会場費が高価な場合はBが有効であると思うが、当団体が主催で開催するイメージがまだない。
	〔問4の回答〕改善が必要
93	大阪の文化発信の底上げをする観点から役者のギャラ等も対象経費にして欲しい。優れた役者との交流によって劇団のボトムアップが図れる、そのことによって演劇全体の活性化につながるの で対象に含めてはどうか
94	結局、赤字補填での助成と理解しています。営利は求めませんが、持ち出し必須というのが、少々不満です（間違っていたらすいません）
95	対象経費に移動費や宿泊費がない為、大阪以外から来阪して創造活動する講師などの負担が足かせとなっている

従来より上限額が30万円増額した一般助成Bについて、多くの申請者が、一般助成A（上限20万円）では十分対応できなかった規模の活動への支援として好ましいと評価しています。具体的には、「公演の規模や質の向上」（6, 32, 40, 58 番）、「事業規模に応じた選択肢の柔軟性」（31, 53, 56, 57, 67 番）などが主要なメリットとして挙げられました。また、今回の改正を「物価や人件費の高騰に対応した支援強化」（16, 18, 22, 42, 46 番）と受け止めた回答も複数見られました。

一方で、対象経費の範囲や運用面について改善を望む声もあり、「対象経費が限定的」（65, 95 番）、「役者へのギャランティや交通費・宿泊費の対象化を希望」（93, 95 番）、「事業規模によっては申請者側の自己負担が増える」（68, 94 番）などの指摘も見られました。

また、本助成の新設が特に若手や中規模団体にとっては「挑戦の機会」（13, 47, 70 番）や「ステップアップの契機」（51 番）となり、大阪における文化芸術活動のさらなる活性化に繋がる可能性が示されています。

問6. 現在の助成金制度には、一般助成 A・一般助成 B・特別助成の 3 種類があります。これらの支援枠は大阪市内の文化芸術活動の支援に適切だと思いますか？(n=126)



項目	非常に適切	適切	やや適切でない	適切でない	その他	合計
件数	26	87	12	0	1	126

その他の回答

- ・判断しかねる。

令和 6 年度から、一般助成 A・一般助成 B・特別助成の 3 種類からなる新たな制度に改正されました。今回の調査では、この改正後の助成制度について、「非常に適切」（26 件、21%）と「適切」（87 件、69%）を合わせると 90%に達し、大部分の申請者にとって現在の大阪市内の文化芸術活動の実情に合致した制度設計であると認識されていることが分かります。

一方、「やや適切でない」（12 件、9%）との意見も一定数ありました。「適切でない」との評価は見られなかったものの、一部では制度の枠組みや助成の対象範囲にさらなる改善を求める声があることが推察されます。

全体としては、現行の助成制度が大阪市の文化芸術活動の多様性や規模に対応した効果的な支援体系として受け入れられていることが確認できますが、今後も継続的にニーズの把握や制度改善を図っていく必要があると考えられます。

問7. (問6の回答に対して)その理由をお聞かせください。(問6の回答順)

	[問6の回答] 非常に適切
1	個人ユニットでの公演にとっても希望がもてるので。
2	いろいろな種類があって選べる場所
3	規模に応じて選択できるので非常にいいと思います
4	大阪には大昔から文化都市であり、経済文化が根付いていたが、昔のように旦那衆がいなくなった現代において行政の支援があるのは有難いと思う。
5	活動に応じて、少しでも負担が少なくなればより夢の実現に希望がもてる
6	開催が金銭的に厳しいが、実行したいことの手助けになる
7	芸術活動が多種多様であるように、その活動団体の規模、予算、特性によって様々なので、三種類あるのは適切だと思います
8	事業内容に応じて申請できるため
9	区分が分かりやすいです。
10	まだ始めて間もない団体や、中堅どころの団体などその用途に沿って申請することができるため
11	芸術性の高さや集客とは必ずしも一致しない。そこで、市の助成のおかげで果敢な活動が市内各地で展開され、多くの一般市民の目にも留まり、参加することで文化活動の好循環が生まれると考えるため。
12	金銭的には適切だと思う
13	それぞれそれぞれのコンセプトに合わせた支援内容となっているため
14	一般助成は幅広い芸術活動に大きな支援となりますので、重要だと思います。
15	市民のさまざまな活動へ機会が増える為。
16	支援枠が広がったことで幅広く申請ができる
17	一般的に、文化芸術活動は、日常生活の必需品とっていない方が、多いように思うから、何もしなければ、衰退してしまう可能性がある。
18	幅広い団体で活用できるため
	[問6の回答] 適切
19	プロジェクトの規模感に応じて、助成金の選択肢が増えるため市全体の芸術文化に携わる方たちがより意欲的に助成金を活用した取り組みを行えるからです。
20	一般助成Bは良い制度だと思いますが、枠を一つにして助成できる活動の数を増やせたら有り難い団体もあるように感じる
21	申請者に選択肢があり、様々な規模の芸術活動が支援されることで、大阪市の文化活動が活発になっていくと考えられる
22	芸術の規模が多様さが増しているので、よく考えられている。
23	特に不満を感じないから

24	活動によって適切な条件を選べるためです。
25	3種類ありありがたいと思うのですが、特別助成が年に一回しか募集されないので、11月開催事業だとしっかり検討する時間があまりない状態です
26	事業規模に応じて申請が可能
27	活動内容に適したものを選べるため
28	区分けがされている点が良いと思う。
29	小規模の公演から大型の公演まで幅広く文化芸術の支援をいただけることは適切だと考える。
30	文化活動の規模に沿っていて、適当だと思われます。
31	様々な形態の団体に沿った支援となるため
32	事業規模により選択ができるため
33	事業の規模に応じて申請できる
34	多様な活動を支援することができるため
35	概ね理解できますが、伝統芸能や邦楽・邦舞の分野がやや分かり辛い
36	芸術文化に幅広く対応しており適切と思いますが、東京のスタートアップ助成のような制度もあればいいと思います。
37	目的、規模に応じて、選択できるため。
38	3種類の制度が設けられていることにより、申請者はより多くの選択肢を得ることができると考えられます。
39	もっと多くの団体が恩恵を被る方がもっと良い。
40	活動規模によって分けることができる
41	レベルに合わせた助成枠があって良いと思います
42	私の申請している事業分野についてですが、会場の大きさ、公演日数など規模の大小の差が大きいため、それらによって一般助成の枠にもう一段階あるとより適切な支援になるかと存じます。
43	分類としては適切だと思うので。
44	多様な内容に適していると思う
45	我々小劇場の予算に適した金額だと思います。
46	規模が違う公演があるので用途によって使えると思う。他都市公演する団体にもう少しやりやすい方法があればいいと思います。
47	劇団の規模に合わせた応募ができる
48	選びやすい
49	可能であれば、助成額の間である一般助成Bの上限額を上げていただけると助かります。
50	自主公演にて次世代を担う子供イベントや障害者の方とのイベントをしています但今回は文化保存の為の特別助成で申請してみました。
51	活動の規模や内容にあわせて選択できるので適切だと思います。
52	文化芸術活動を行っている様々な団体の活動の幅が広がると考えるため

53	説明会でプロセスを伺い、同意できる部分多であった。
54	歌舞伎の公演はどうしても支出が多いので特別助成があることで助けられています。
55	事業規模に合わせて様々な主催者が申請できるため。
56	規模に応じたものだから
57	必要分である
58	今回、一般助成 B が新設されたが、一般助成 C として、特別助成と一般助成 B との間にもう 1 種類枠があってもよいような気がします。
59	事業に対する助成額が適切であるため
60	小さな規模の公演から大きな規模の公演までカバーがしやすいと思われるから
61	多くの団体や公演への支援と作品の質や規模などによって、申請枠を変えられるし、特に特別助成枠があるのが良いと思う。
62	規模やジャンルに応じたすみわけができるのでいいと思いました。
63	枠組みの過不足を感じない
64	多様な企画内容で応募が可能となる
65	各団体に合った助成の規模であり、大阪における文化活動の発展に貢献している
66	選択肢が複数なのはありがたい
67	芸術団体や事業の規模が多様化しているから。特に特別助成の「上方古典芸能普及発展支援」ユニークで貴重である。雅楽、能楽、文楽、歌舞伎の発祥・発展の中心地は、大阪であるという認識にたった枠組みであり、大阪市民の誇りを支える大阪ならではの支援であると考えている。
68	活動内容に応じた助成が受けられること
69	A の次の段階を目指すとなると、特別助成。能楽の雇用や支払いが従来のままなので、特別助成の申請のためにはまずその環境をアップデートしていく必要性を感じている。
	〔問 6 の回答〕 やや適切でない
70	もう少し様々な枠があると嬉しいです。しかし、この様な制度を作って頂き本当にありがとうございます。
71	特別助成への申請が数居が高いから。
72	一般助成と特別助成に分けるのではなく、単純に企画内容と予算規模で額を決めるようにした方がいいのではないか。
73	大阪市が文化水準を誇れるようにもっと積極的な支援枠を設定していただきたい。
74	対象経費を絞りすぎていて、現実の文化活動を反映していない。いろいろな助成申請をしてきたが、特に A・B については、ここまで狭いのは珍しいのではないかな。
75	一般助成の上限額から特別助成までの間（100 万ほど）もあればと思います。また、期間も半年ではなく年間を通してのものがあればありがたいです。

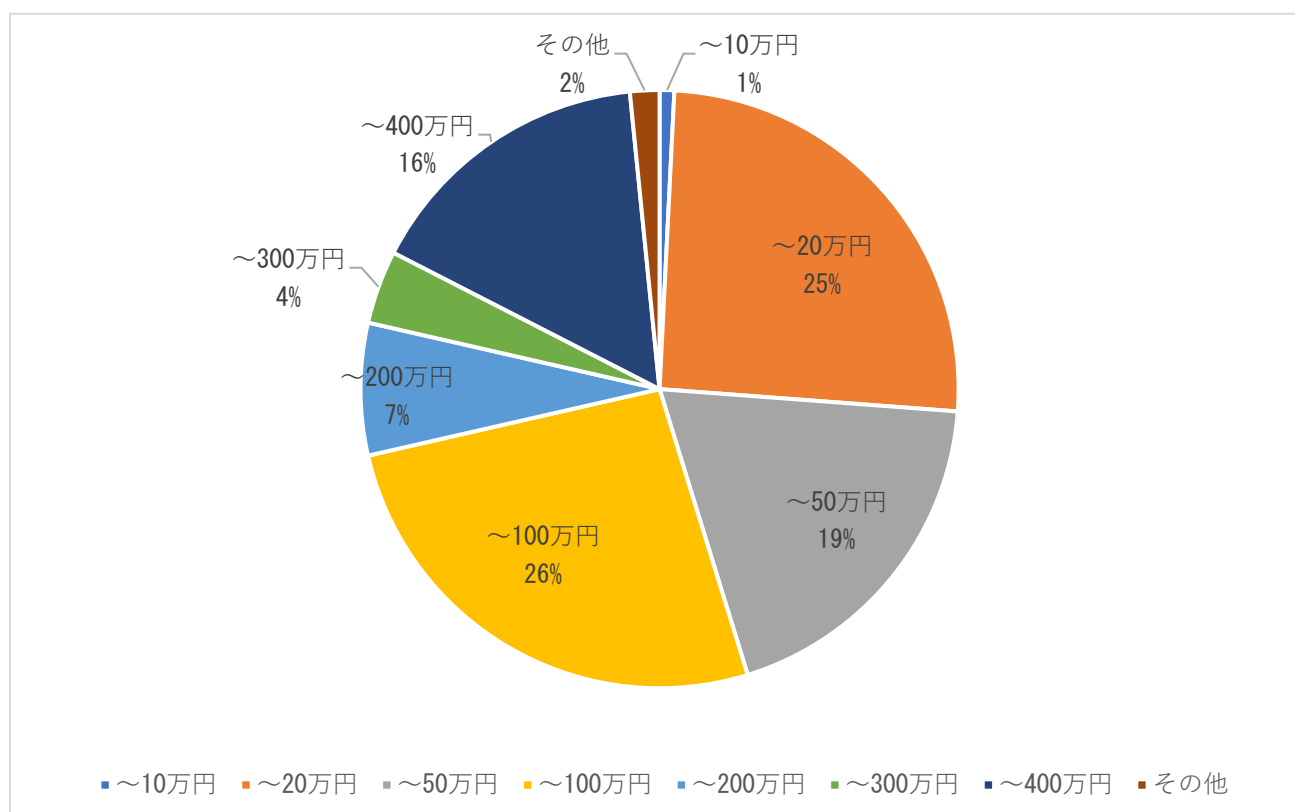
76	公演経費は若手もベテランの団体でも等しく発生する部分がある（劇場費や出演料、スタッフのギャランティ等）。その観点から考えると、若手や歴の浅い団体でも 50 万円ほどの助成が必要だが、現状の制度ではその部分をフォローしきれていないと感じる。
77	一般助成の A・B の対象経費が薄いと思います。
78	助成金金額が赤字経費の半額ということでせめて赤字を 100%助成していただきたい
79	特別助成へのハードルが高く感じられる。例えば、演劇祭ほどの規模ではなく、外国から劇団を招いて共同公演をする規模の 200 万枠、みたいなものがあれば、大阪芸術、何より演劇界の未来の為に奮闘したい気になる。
80	大阪市のクラシック公演に相応しい文化ホールは非常に高額であり、また他市と比べても付帯設備費及び人件費が非常に高い。同じ公演内容でも金額が 3 倍違った場所もある。そこから考慮すると、100 万枠や 20 万枠を 30 万枠に増額などして頂けると非常に申請しやすい。
	[問 6 の回答] その他
81	事業の分野・規模によって、助成の適正額が違ってくると思うので、申請事業者の傾向がわからないと、判断しかねます。

全体として現行の「一般助成 A・B・特別助成」の 3 区分制度は評価が高く、多くの回答者が「活動規模や特性に応じた柔軟な申請が可能になった」（3, 7, 19, 21, 24, 32, 38, 51 番）ことを評価しています。特に、新設された一般助成 B については、個人や中小規模団体が公演規模や質を向上させるために有効であるとの意見が目立ちました（1, 3, 22, 29 番など）。

一方、現行の制度に対しては、対象経費の制限が厳しいとの意見（74, 77 番）や、特別助成と一般助成 B の間に新たな助成区分を設けるべきだという要望（42, 58, 75, 79, 80 番）が散見されました。また、特別助成については「申請のハードルが高い」（25, 71, 79 番）といった指摘があり、今後の改善点となる可能性があります。

これらを踏まえると、令和 6 年度の制度改正は概ね大阪市の現状に合致した適切な措置と評価される一方で、文化芸術活動のさらなる多様化・高度化を見据えて、対象経費の拡充や助成区分の追加、募集頻度やタイミングの再検討など、制度の微調整を継続的に行う必要性が示唆されます。

問8. どの助成額があなたの活動に対して最も効果的な支援だと感じますか？（n＝126）



項目	件数
～10 万円	1
～20 万円	32
～50 万円	24
～100 万円	33
～200 万円	9
～300 万円	5
～400 万円	20
その他	1
合計	126

その他の回答

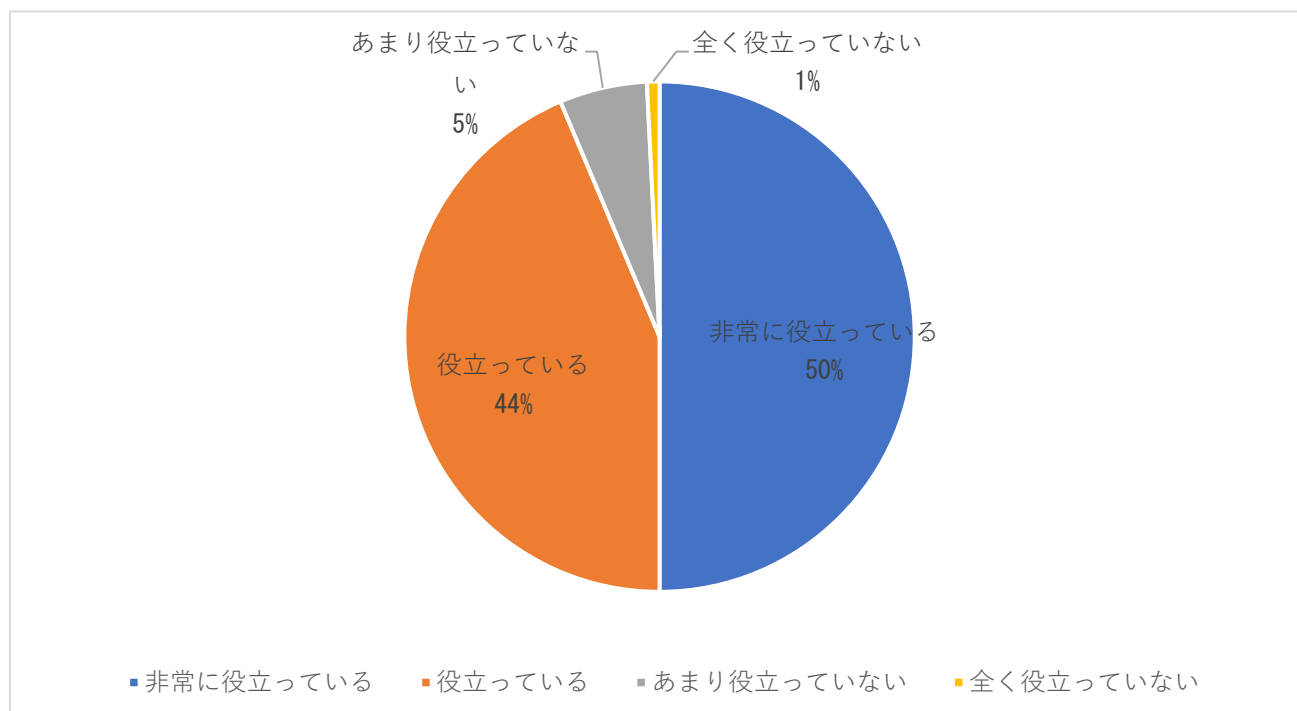
- ・年度により活動内容や規模が異なるため判断しかねる。
- ・大阪市が文化水準を誇れるようにもっと積極的な支援枠を設定していただきたい。

助成金額に関する意見は特定の金額に集中せず、比較的分散している傾向が確認されました。特に「～20 万円」（32 件、25%）、「～50 万円」（24 件、19%）、「～100 万円」

（33 件、26%）、「～400 万円」（20 件、16%）など、活動内容や規模によって希望する助成額に幅があることが分かります。

この結果から、大阪市の文化芸術活動は多様な規模や性質を有しており、小規模から大規模な活動まで柔軟に対応可能な支援枠が必要とされていることが示唆されます。特に、今年度新設された上限 50 万円枠（一般助成 B）や既存の上限 20 万円枠（一般助成 A）は、多くの団体にとって重要な支援として機能している一方、100 万円や 400 万円などの高額助成のニーズも同程度存在していることが読み取れます。

問9. 助成対象経費の種類は、より質の高い創作や発表及び市民の文化・芸術振興のために役立っていると感じますか？(n=126)



項目	非常に役立っている	役立っている	あまり役立っていない	全く役立っていない	合計
件数	63	55	7	1	126

助成対象経費の設定について、「非常に役立っている」（63件、50%）、「役立っている」（55件、44%）という肯定的な評価が合計94%に達し、多くの申請者にとって、現行の経費対象が質の高い創作・発表や市民の文化芸術振興に効果的であることが明らかになりました。

一方で、「あまり役立っていない」（7件、5%）、「全く役立っていない」（1件、1%）という否定的意見も少数ながら存在しており、一部では経費対象の範囲や用途に課題が残っていることも示唆されます。

問10. (問9の回答に対し)その理由をお聞かせください。(問9の回答順)

	[問9の回答] 非常に役立っている
1	単価などの上昇により演劇を打つのがどんどん難しくなっているのです
2	周知、宣伝に非常に役立つため
3	気になって見に行ったら、大阪市の助成企画であることがよくあったから。
4	大阪市の助成金がないと継続した活動ができていないと思われる劇団をよくみてきた。
5	助成をいただいたことにより、映画祭内容が充実したと思っています。
6	普段では手の届かない事にチャレンジできる
7	より品質の高い作品を制作することでお客様が喜んでくださること。
8	どうしても収入でまかないきれない場合もあるので、質の良い物を届けるには役に立っていると思います。
9	細かいところにも対象経費があり、活動しやすくなっている
10	一部でも費用の補助をしていただくことが助かります
11	芸術文化活動実施への意欲と、幅広く市民へ還元を行うことができるため
12	芸術活動の市民への認知度の低さから、どうしても集客力が無く同時に資金力も無い中で助成していただくことは大いに役立っています
13	助成金あることで、活動を推進するモチベーションにつながると感じます。
14	より市民に還元をできる活動を行うことができるため
15	会場費や制作費を必要以上に削らなくてよい
16	券売では賄えない、次の展開に向けた取り組み（新曲の制作など）にチャレンジすることが出来る。
17	助成金を頂くことで、自己負担を軽減し、実施することに新たな希望をもって次に進むことができます
18	大阪市の芸術文化行政への理解が深まると思います
19	行政が助成金を出すことで企画する人間が増え、その中でも刺激し合うことが文化向上に繋がると思うため
20	資本主義社会において、現時点では経済的価値が見出されていなくとも、将来的に価値を生み出す可能性のある芸術を市民に提供することができます。また、市民の理解を得るためには、質の高い創作活動が不可欠であり、本助成金はそれを実現する重要な手段となっています。
21	演奏家が持ち出しだけでやっているようでは、中々成り立っていかない現状。
22	諦めることなく芸術にとりくむ後押しになっています。
23	今回の助成金を通じて他ジャンルとコラボレーションしようと思い立ったので
24	いま小劇場のチケット代はどんどん高くなっている。そんな中チケット代の据え置きや、継続的な活動に欠かせないと考えている。
25	会場の広さなど、お客様にとっても良い環境で開催できるから。

26	個人の小さな活動から、団体の大きな活動まで包括しているから
27	助成対象経費の種類が多数設けられていることにより、活動が可能となる団体が増える要素になっていると考えるため、役立っていると感じる。
28	音楽分野においては出演料や会場費といった、公演実施に必要な経費を直接支援して頂いてるため
29	10年間支援いただいたことでファンの数も増加、また出演者の技量も向上しているため助成金が役立っていると感じます。
30	特別助成は、対象となる項目が多いのでとても使いやすい。
31	どんな芸術活動もある一定の費用を要するので、そこに行政からもサポートがあることはとても嬉しくより多くの市民が活動しやすくなると考えます。
32	市民の皆様にも少しでも負担の少ない価格でご観劇頂ける。舞台を目指す多くのお子様にも、より良い舞台をお届けできると思います。
33	コロナ蔓延以降の観客減少の補填
34	活動している大まかな部分はカバーして頂いているから。
35	行政からの支援が欠かせない
36	何にお金がかかっているかを、理解して頂くのには、この分類で良いと思います。
37	法人、個人の賛助金のみに支えられて活動しているので、助成金は貴重な財源となっている。
38	助成金によって、廉価チケット設定や高校生無料チケットの設定が可能となり、幅広く大阪市民の皆様にご観劇機会をご提供できるため
39	制作費不足を補い、作品の向上・集客の増加に役立っている
40	特に上方古典芸能の領域においては、伝統文化維持ということが本義となり、創造的な芸術表現を行うことまでの財政的余裕がある分野が少ないと思う。このような支援があるからこそ、創造的な芸術表現を通じて、広く大阪市民に古典芸能に関心を持って貰う良い機会を創出できる。
41	助成されることにより、チケット価格の高騰を抑えることができ、よりたくさんの方々に公演に足を運んでいただけるので
42	会場費他事業を実施するための経費の助成を得ることで継続が可能であり、芸術振興に役立っている
43	アンケート結果及び観客参加型での奏者の感想による実績における事実。
	[問9の回答] 役立っている
44	アーティストやクリエイターとともに地域活性化につながるプロジェクトを行うにあたり、経費の種類が市民への還元というポイントにおいて明確であり活用したイベントやプロジェクトを組みやすいため。
45	収入源をチケット代に頼っていると、どうしても価格が高騰してしまう。チケット代高騰を抑えることができれば、文化を楽しむことができる市民も増えると思うから
46	特別助成は対象経費の幅が広いので、質の高い芸術活動の支援になりうる。可能であれば、本番とは別会場であっても、本番通りの練習を行う場合の施設費などが対象になるとありがたい。

47	制作の中心部分の経費を補填してくれるものだから。
48	演劇公演において多くを占める会場費・舞台費・照明費・音響費を充当できる
49	文化や芸術に触れる機会が増えると思うため
50	助成金があって初めて実現できる企画があるため
51	一律ではなく、それぞれの公演によりマッチしたものへの助成になっていると思います。
52	過去の採択団体の内容を見て、そのように感じた。
53	会場費・舞台費・印刷費への助成は大いに助かる。
54	役に立ってはいますが、例えば一般助成の場合は使える対象経費が限られており、また舞台中心で費目が構成されており、これからの若手が自由に大阪で創造を行うには使いにくいものとなっています。
55	必要な経費は概ね対象となっているのですが、制作人件費も助成対象経費であればいいと思います。
56	申請者としても、活動計画を立案する際の手掛かりや指針となると感じます。
57	役立っています。ただ、昨今の賃金上昇の局面を踏まえ、人件費の増加に対する手当も検討していただきたい。
58	継続した活動ができる
59	収支の黒字など経済面に囚われると、どうしても多くの人々に馴染みのあるプログラムに偏りがちである。しかし、こうした公的な支援のお陰で、より多彩な活動が展開されることが期待されるから。
60	私の申請している事業分野についてですが、出演料を対象経費としていただけると、キャスティングの大きな一助となりますので、より質の高い作品をご覧いただくことが可能になると考えます。
61	質の高い公演創りを勧めるということは、劇場に初めて来られる方にもよく来られる方にも還元できると思います。
62	主催者の代表にも経費対象にであるべき。団体によって作演出が代表を兼ねていると予算が大幅に変わるのでは。
63	より質の高いスタッフを採用できるので役立っているが、照明等スタッフのプランに関しても適用されるとより役立ちます
64	内容によるだろうから
65	今でも令和3年度の助成に採択いただいたことは大変ありがたく思っています。ただ、海外や他府県からアーティストを招聘する際の枠組みや計上科目をもう少し柔軟にしていきたいと思います。
66	芸術活動を企画し主催イベントをするたびに赤字なので役立てたいです。
67	「活動当日に関連する経費」とはっきりしているため役立っていると思います。一般助成も広報宣伝費のような準備段階の経費で実施可否がわかるものも対象に含まれると大変ありがたいと思いました。
68	説明会に出席されている人数と顔ぶれを見て妥当性を実感。

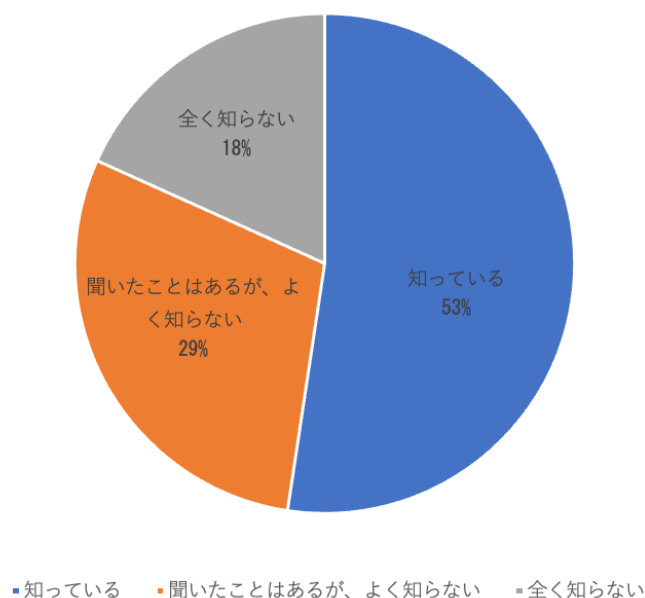
69	現状でも役立っているが、一番経費にかかるには人件費でもあり、舞台監督費用が含まれないのは納得できない
70	機会が増える
71	事業が運営しやすくなるため。
72	演劇公演の採算性の悪さは著しく、助成金などの補助がなければ継続すら難しいと考えている
73	仕訳が明確で創作現場の事を熟知して下さっている感があるから。
74	今後ブラッシュアップは必要と感じますが、この助成システムの存在は将来的にも期待が持てて、いいと思います。
75	助成対象経費の対象がもうすこし拡充したらなおよいと思う。
76	助成金は大変ありがたいが、やはり日本の第二の文化都市と宣言するのであれば市立の芸術劇場がないのは致命的といえるのではないか。
77	助成を受けることにより、入場料をおさえられる。
78	事業の経済的な助けになっている
79	役者たちへのギャランティーを考えると、Bの枠でも文芸費を含ませてほしい。
80	申請分類ごとに対象経費が異なることで、支援側の目的がわかるので、全てを支援するのではなく支援側の軸は必要だと思う。
	[問9の回答] あまり役立っていない
81	一般助成Aの20万円という額が、どういう局面で役立つのかあまり想像できないというところはある。
82	演劇と違い、音楽は制作の費用抑えることが厳しく、経済的な部分で取り組みに苦労している。
83	一般助成A・Bについて、旅費や謝金の対象になっていないのはなぜかわからない。また、印刷費について、SDGsの観点やコロナ以降のデジタル広報を対象にすべき。
84	創造芸術に最も必要な著作権料・演出料・プランナー料・舞台監督費・出演料などの人材費用が対象外経費であることが不適切であると考えます。
85	芸術分野の発展のためには、演者、演奏者や演出家が継続的に活動し、挑戦的な創作活動を行っていける環境が必要だと考えるが、現行の助成対象にはそれらが入っていないため。
86	創作するための執筆料や稽古費用など質を高めるための費用が対象経費として認められていない
	[問9の回答] 全く役立っていない
87	メイン出演者が団体構成員というだけで助成対象にならない。他の出演者の出演料から算出して規定を設けてほしい。ぴあなどの手数料は公演に必要な経費なのに「手数料」というだけで経費に認めてもらえない。

全体として本助成金制度は文化芸術活動の実施に大きく貢献していると評価されています。具体的には、「公演やイベント開催に不可欠な会場費や制作費への支援が活動継続のために役立っている」（8, 10, 15, 28, 48, 53, 71 番など）、「チケット価格の抑制によって

幅広い市民の文化参加を促進できている」（24, 38, 41, 45, 77 番）という意見が多く見られました。

一方、改善点としては「人件費（出演料、演出料、舞台監督費等）が対象外であることに対する不満」（55, 57, 60, 69, 79, 84, 85, 86, 87 番）や、「旅費や謝金、広報宣伝費などの対象経費の拡充」（46, 54, 65, 67, 75, 83 番）を求める声が目立ちました。特に、公演やイベントの質を高めるためには人材への投資が欠かせないとの意見が多く、現行の助成対象経費の範囲に再検討の必要があることが示唆されます。

問 10. 大阪アーツカウンシルが相談会や助成金の申請に役立つ講座、座談会などを実施していることをご存じでしたか？(n=126)



項目	知っている	聞いたことはあるか、よく知らない	全く知らない	合計
件数	66	37	23	126

大阪アーツカウンシルが実施する相談会や助成金申請に役立つ講座・座談会について、「知っている」と回答した人が 66 件(53%)、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 37 件(29%)となりました。この結果から、大部分の申請者にとって同カウンシルの支援活動が一定程度認知されていることがわかります。一方で、「聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた人が約 3 割いたということは、具体的な内容や開催方法などについての十分な理解には至っていない申請者も一定数存在していることがうかがわれます。

今後さらに効果的な支援活動を推進していくためには、相談会や講座・座談会の内容について、より積極的かつ詳細な情報発信を行い、認知度だけでなく理解度の向上を図っていく必要があると考えられます。

問11. 大阪アーツカウンシルによる講座等で、期待する内容や形式があればお聞かせください。

1	今は特にありません。
2	助成金の説明会はとても為になりました。しかし、もう少し早めのタイミングで開催されたら準備する時間をしっかり取れたので有り難かったです。
3	集客の方法。各世代ごとの、興味を持って足を運んでみようとする基準。
4	税制について知りたい。
5	芸術家個人や、芸術団体の契約に関する講座や相談会で、リモートやオンライン講座など、時間が制約されずに学べる講座があると大変ありがたい。
6	活動実施会場の特性や事例。
7	助成金もそうですが、資金集め（協賛募集、クラファンなど）の講座があれば参加したいです。
8	助成金公演のスケジュールや、他の助成金情報がわかるような仕組みがあればうれしい。
9	様々な年代の方に、団体の活動を周知して頂く手段などをお教え頂きたい。
10	公演での音響や照明の効果的な使い方。
11	Q & A形式
12	自分たちに適した助成金の情報や講座があれば受けてみたい。オンラインがあればなお有難い。
13	大阪の劇場および稽古場の現状と将来像に関する分析をテーマとした講座。
14	活動を継続していくためや魅力的な舞台づくりのための、他分野や専門家の方の意見を聞いたりネットワークづくりができる場。
15	特になし。
16	さまざまな分野間での交流や協働、ワークショップなど。
17	市民の皆様の最新の芸術嗜好がどのような傾向にあるかなどの講座は興味深いです。
18	大阪で文化活動を継続していく方法やサポート体制。
19	質疑応答に時間を割いていただける形があればと思います。
20	これまでコロナ禍ということもあり、出席をしたことはなかったので今後は出席を検討したいが、オンライン参加を可能にしていきたいです。
21	フリートーク。
22	歌舞伎や文楽よりも歴史のある、手品からくり（古浄瑠璃・からくり芝居）や無形文化財・和妻（日本手品）も大阪を代表する古典芸能なので、記載して広めてほしい。
23	対面とオンラインのハイブリッド形式、またはアーカイブ配信があると助かります。
24	申請対象となる芸術活動も様々であるため、それぞれの分野に関する講座等があると良いのではないかな。
25	社会学や文化経済学の内容。
26	文化芸術発展の為に話を共有できる機会を多く持てることを望みます。
27	芸術文化に対する大阪府市以外の助成金なども紹介いただけるような仕組みがあればうれしいです。
28	異なるジャンルを催す方々との意見交換会などが気軽に参加できればうれしいです。

29	より広く市民に知ってもらえる広報について教えていただきたいです。個人で活動されていて成功事例があればお聞きしたいです。
30	芸術の裏を支えて下さる裏方の人を育成するような講座により、芸術団体を下支えできる若い方を育成していただければと思います。
31	すぐには思いつきません。
32	助成金に関する説明会は、これから助成を受けようとしている方にはとてもいいと思う。また助成内容に大きな変更があった場合にお知らせがあれば、説明会に参加して理解を深めたいと思います。
33	ウェブでの集客方法について。
34	現在ある大阪府・大阪市の助成金以外で芸術活動を支援してもらえる助成金情報が分かると助かります。
35	事前に申請様式に記入してから講座を受講すれば、より理解が深まり、お互いに WIN-WIN になれると思う。
36	採択されやすい企画立案の指導。
37	演劇制作について（特に広報・受付業務）の知識を得たい。
38	大阪市の芸能文化の全体像、他の都市との違いなどを知りたい。
39	古典芸能に特化した講座や催しはあまり見ないので、そのようなものを設けてもらいたい。
40	ZOOM などのオンラインで開催してほしい。
41	なかなか時間帯が合わないので、アーカイブなどあれば助かります。

大阪アーツカウンシルが実施する講座等について、全体として申請者は実務的かつ具体的な内容を求めていることがわかります。

特に多く挙げられたニーズとしては、「オンラインやアーカイブ配信など柔軟な受講形式の提供」(5,12,20,23,40,41 番)があります。また、具体的な内容面では、「効果的な集客や広報方法」(3,9,29,33 番)、「資金調達方法(協賛・クラウドファンディング)」(7 番)、「大阪府市以外の助成金情報」(8,12,27,34 番)、「申請に役立つ企画立案のノウハウ」(36 番)など、実践的なテーマに強い関心が寄せられています。

さらに、「他分野との交流やネットワーク形成」(14,16,28 番)や、「芸術文化全体の動向や行政支援体制に関する理解促進」(13,17,18,38 番)を希望する声もありました。加えて、古典芸能など特定分野に特化した講座の設置(22,39 番)を望む意見も見られます。

これらを踏まえると、今後の講座や座談会の開催においては、申請者が参加しやすい柔軟な開催形式を整えるとともに、具体的で実務に直結する内容や異分野交流を促進するプログラムを増やすことが求められていると考えられます。

問12. 本助成金についてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

1	今後も継続、発展してほしい。積極的に利用し、文化の振興に貢献したい。
2	担当者として初めて申請を行い、活動を実施するのに欠かせない費用の多くが助成対象外とされていることを知りました。全てを対象にすべきとは思いますが、一度再考していただけたら有り難いです。
3	営利目的の公演を市の税金で支援することに私はあまり違和感を感じないので、営利目的の公演も助成の対象にしてほしい。文化的な活動で利益を上げられるように促すことも、文化の発展には必要なのではないかな。
4	とても助かっております。ありがとうございます。
5	申請ページの「助成対象活動名」欄にアルファベットや半角スペースが入れられなかった。事業名は自由に記載できるようにお願いしたい。
6	非常に重要だと思っています。これからも続いてほしいと切に願っています。
7	昨年は特別助成をいただきまして、誠にありがとうございました。おかげさまで初めての開催にも関わらず、充実した内容の映画祭になりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。
8	主催者や出演者の負担が減り、活動の幅が広がるため助かります。
9	説明会に参加した時、思ったより多くの方が参加していたのを見て、対象事業として許可がおりるか心配になりました。
10	経済的に不自由な音楽家のために満額での助成金制度を希望します。
11	大阪市の文化芸術の発展のために協力いただければと思います。
12	今回が初めての申請なので、特に意見はございません。
13	不採用の理由を各団体に対して明確に示していただくと、今後の改善がしやすくなります。
14	よろしくお願いいたします。
15	申請フォームで半角英数字が記入できない欄があったのがやや不便に感じました。
16	いつもご協力をいただきありがとうございます。大阪の文化芸術発展の一助となりますよう活動を進めてまいります。何卒よろしくお願いいたします。
17	特別助成はハードルが高く難しいイメージがありますが、なんとか採択いただき、上質な作品をお届けしたいと思います。
18	日本芸術文化振興会の助成対象活動にも採択された活動については、本助成金は不要だと思います。
19	助成金申請書を作成すること自体が活動のまとめや目標立案に役立っていると思います。今後ともよろしくお願いいたします。
20	お世話になりありがとうございます。
21	助成金が不交付になった場合の理由をもう少し掘り下げてお聞かせいただけますと幸いです。
22	毎年助成されるわけではないので、良い演奏をしている団体には大きな援助となるよう見極めていただきたいです。
23	これまでの自身の活動をあらためて振り返る機会をいただきました。ありがとうございました。

24	前年度はご助成をいただき、より良い状態で作品を創作でき、お客様にご覧いただくことが叶いました。心より感謝申し上げます。
25	対象経費について、実際に公演のために必要不可欠な経費が申請できない部分があると思うので、見直してほしいです。
26	予算額に対して助成金額を柔軟に決めるようなフレキシブルさがあれば嬉しいです。
27	よろしくお願いいたします。
28	前回申請した時はまだ郵送での受付でしたが、今回インターネット上で申請できるのでとても便利に感じます。
29	対象経費の見直しをお願いしたいです。
30	芸術文化ははっきりと目に見える成果が出難い分野ですが、かつて千利休が活躍した文化都市・大阪の再興に向けて、これからも支援の幅を広げていただきたいと思います。
31	難しいとは思いますが、上限を決めてでも主催者に利益を残すことができる助成金があれば、主催を志す人が増えるのではと思います。
32	大阪アーツカウンシル主催のイベントに出演依頼いただけると、多様な繋がりが広がると思います。
33	今回が初めての申請でしたが、説明会の実施や説明会後の個別メールでの質問に迅速に対応していただき、大変助かりました。今後も参考にさせていただき、芸術活動を実施する際はまたご相談させていただきたいと思いました。
34	審査結果について、下期では一般助成A・Bそれぞれの申請件数および助成予定件数が公開されているのに対し、上期では一般助成A・B、特別助成それぞれの件数が公開されていないため、可能であれば次回からの審査結果で公開していただきたいと思います。
35	より多くの芸術媒体への支援を期待します。
36	大阪市芸術活動振興事業助成金がなければ、今の規模の公演を開催するのが困難になります。上方の歌舞伎を継承するためにも引き続きよろしくお願いいたします。
37	市民の方々の大切な税金を使ってご支援いただいていることに感謝いたしております。
38	申請する助成対象活動名欄に関して、使用できない文字（アルファベットや記号等）が複数あり、添付書類との差異が発生するため改善してほしい。
39	申請から決定まで時間がかかるのを改善していただきたいと思います。公演の時期によっては、チラシに助成公演であることを載せるのが間に合わなくて残念です。
40	いつも大変お世話になり感謝申し上げます。ご助成なしでこれまでの活動を続けてくることはできませんでした。ありがとうございます。
41	助成金の種類をさらに増やしてほしい。
42	複数年に渡っての支援枠を検討していただきたい。私どもの企画や目標は単年度では実現が困難なため。
43	これからもぜひ継続していただきたいと思います。できれば助成対象経費の拡充を希望します。
44	初めての申請でしたが、説明会を実施していただいて、本制度が理解できました。
45	助成金の交付は活動にご理解いただいていることの手応えであり、大きな励ましとなっています。今後ともよろしくお願いいたします。

46	当団は、大阪の伝統文化を継承することを第1目標に掲げております。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。
47	今後も文化・芸術への助成を継続してほしいです。
48	説明会にもう少し時間をかけてもらえると助かります。
49	この助成金によって素晴らしい舞台を作ることができています。感謝しています。
50	報告書の書類ミスへのフォローが丁寧で、有り難く思っております。
51	浪曲を未来に繋げるために、寄付金や助成金が大きな力になっており感謝しています。
52	大阪市のホールは他市町村と比べると使用料が高く、場所も限定的なため、助成金額を増額するか、指揮料や委嘱作品作曲料など対象経費の自由度を高くしていただきたいです。

概ね大阪市の助成制度に対する評価は高く、「今後も継続、発展を望む」「非常に助かっている」といった前向きな声が多く寄せられています。特に、助成金によって事業の規模や質を向上させることができ、市民への文化・芸術の提供に貢献できているという声が複数確認されました。

一方で、制度改善に向けた課題も指摘されています。特に目立つのは「対象経費の範囲」に関する要望です。人件費(特に制作費、出演料、舞台監督費、指揮料、委嘱作曲料など)が一般助成 A・B では対象外となっており、これが現実の事業実施に大きな制約となっているという意見が複数ありました。また、同様に一般助成と特別助成で認められる経費の違いが大きく、このことが申請者にとって不合理であるとの指摘も挙がっています。

これらを総合的に考えると、対象経費の範囲、特に人件費を認めることや、一般助成 A・B と特別助成間での対象経費の統一、柔軟な制度設計が求められていることがわかります。今後は、より現場のニーズに即した助成制度へと改善することで、大阪市の文化芸術活動の更なる活性化を図ることが望ましいでしょう。

総括

大阪市芸術活動振興事業助成金は、令和6年度から新型コロナウイルス感染症に伴う特別助成の拡充措置が終了し、大阪の文化芸術環境に即した「一般助成A・一般助成B・特別助成」の三区分制度へと改正するとともに、募集案内の大幅な整理を実施して、大阪の文化芸術を取り巻く現状に合わせた制度改正を行ないました。本調査は、その改正制度が現場のニーズをつかみ、実効性を備えているかを検証するために実施したものです。

調査の結果、約9割の申請者が新制度を「非常に適切」「適切」と評価し、とりわけ新設された一般助成B（上限50万円）は、小規模から中規模の公演や若手アーティストのステップアップ枠として広く歓迎されていることが明らかになりました。これにより、長らく課題であった「20万円枠では補えない活動規模」を支える有効な手立てとして、文化芸術活動の裾野を確実に広げる役割を果たしています。

一方で、募集案内の一部不明瞭さ、そして何より「対象経費の範囲」——特に人件費や旅費・謝金、オンライン広報費など——への拡充要望が強く寄せられました。一般助成と特別助成の経費取扱いの差異も不合理との声があり、真に現場の課題を解消するには、助成対象経費の統一・見直しや、さらに細分化された支援区分の検討が必要な可能性があります。

今回の制度改正は大きな前進をもたらしたものの、依然として改善の余地があります。文化芸術活動の第一線に立つアーティストや実演創造団体の皆様の声を真摯に受け止め、募集要項をより明確に示し、対象経費の柔軟性を向上させること——それが今後大阪市文化課と大阪アーツカウンシルが共同で取り組むべき課題です。

助成金は単なる資金提供ではなく、市民の文化・芸術の振興を図るとともに、文化芸術関係者の皆様が大阪の文化を創り上げるための環境整備を支援するものです。私たち大阪市と大阪アーツカウンシルは、大阪で活躍するアーティストや実演創造団体の皆様が、安心して自由に創作活動を展開し、地域の文化や芸術を豊かに紡いでいけるよう、そしてその文化芸術を多くの市民の皆様にお届けできるよう、より良い制度設計と支援体制の整備に努めます。

大阪の文化芸術関係者が一層発展し、大阪を拠点に魅力的な文化芸術活動を展開し続けること——その実現を心から望み、そのために尽力してまいります。

調査票

令和7年度芸術活動振興事業助成金申請（上期）

募集案内は分かりやすかったですか？ 必須

選択解除

- ☐ とても分かりやすい
- ☐ ある程度分かりやすい
- ☐ やや分かりにくい
- ☐ 分かりにくい

過去に本助成金に申請したことはありますか？ 必須

選択解除

- ☐ 申請したことがある
- ☒ 申請したことはない

申請しなかったのはなぜですか？（複数回答可） 必須

- ☐ 対象外の要件に該当していた
- ☐ 助成金申請をしなくても事業を実施できていた
- ☐ 他の補助金等の交付を受けていた
- ☐ 申請手続きが煩雑で面倒だった
- ☐ 本助成金を知らなかった
- ☐ その他

令和6年度より新設された一般助成B（助成上限：50万円）についてどう思いますか？ 必須

選択解除

- ☐ 非常に良い
- ☐ 良い
- ☐ 普通
- ☐ 改善が必要
- ☒ その他

「その他」とお答えされた方は、その内容をお聞かせください。 必須

その理由をお聞かせください。

現在の助成金制度には、一般助成A・一般助成B・特別助成の3種類があります。これらの支援枠は大阪市内の文化芸術活動切だと思いませんか？ 必須

選択解除

- ☐ 非常に適切
- ☐ 適切
- ☐ やや適切でない
- ☐ 適切でない
- ☒ その他

「その他」とお答えされた方は、その内容をお聞かせください。 必須

その理由をお聞かせください。

どの助成額があなたの活動に対して最も効果的な支援だと感じますか？ 必須

選択解除

- ☐ 10万円
- ☐ 20万円
- ☐ 50万円
- ☐ 100万円
- ☐ 200万円
- ☐ 300万円
- ☐ 400万円
- ☒ その他

「その他」とお答えされた方は、その内容をお聞かせください。 必須

助成対象経費の種類は、より質の高い創作や発表及び市民の文化・芸術振興のために役立っていると感じますか？ 必須

選択解除

- ☐ 非常に役立っている
- ☐ 役立っている
- ☐ あまり役立っていない
- ☐ 全く役立っていない

その理由をお聞かせください。

大阪アーツカウンシルが相談会や助成金の申請に役立つ講座、座談会などを実施していることをご存じでしたか？ 必須

選択解除

- ☐ 知っている
- ☐ 聞いたことはあるが、よく知らない
- ☐ 全く知らない

大阪アーツカウンシルによる講座等で、期待する内容や形式があればお聞かせください。

本助成金についてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。